

「わが村は美しく－北海道」運動

第9回コンクール(平成30年～平成31年)



石狩・空知地域版



北海道開発局 札幌開発建設部

目 次

1	「わが村は美しくー北海道」運動とは	1
2	第9回コンクールについて	2
3	応募団体紹介	
	・江別市「まち」と「むら」の交流推進協議会加工部会	3
	・特定非営利活動法人 サトニクラス	4
	・株式会社 ふるさとファーム	5
	・江別酒米栽培グループ「すいせい」	6
	・千歳市グリーン・ツーリズム連絡協議会	7
	・JAいしかり直売所出荷者協議会	8
	・グリーンツーリズムしんしのつ	9
	・三笠地域における「農」と「食」の連携推進協議会	10
	・河川愛護団体 リバーネット21ながぬま	11
4	第9回コンクール応募団体位置図	12
5	「わが村は美しくー北海道」運動のコンクール応募状況	13
6	「わが村は美しくー北海道」運動ロゴマーク	14

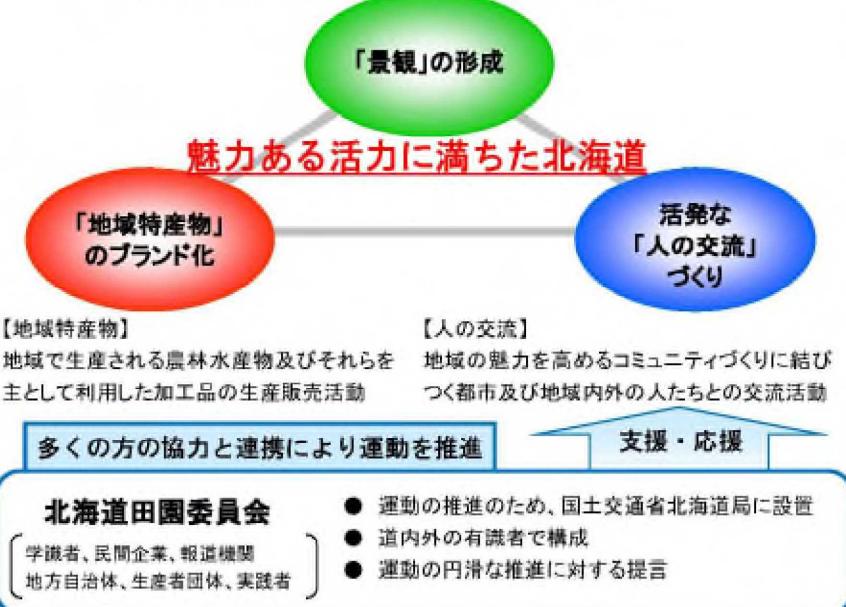
「わが村は美しくー北海道」運動とは



Point

- 北海道の農林水産業をより豊かにすることをめざし、平成13年にスタート
- 道内各地で地域資源を活用して地域を活性化しようとする住民主体の活動に対する支援

【景観】 地域の特色を活かし、生活と生産に根ざした景観形成活動



第8回コンクール大賞受賞団体

北海道幌加内高等学校【幌加内町】

「そば」を活用した学びを通して、入づくりと地域づくりをうまく結びつけた活動に取り組む



十勝パンを創る会【帯広市】

「十勝パン」ブランドの確立を目指して、地域に根差した商品の開発に取り組む



- 参加しよう—中心となるのは、地域に住む人々
- 広げよう—活動の輪を大きく、自由に
- 伝えよう—北海道の「いいもの」を、もっと外へ

「地域の資源」を見つけよう
地域の個性を競い合い高め合い
地域住民の努力と行動に光をあて、広く伝えよう

取組

- コンクールの開催 ← 「地域資源」を見つけ、「いいもの」を多くの人に伝えます
- 地域の魅力を高めようとする地域住民の活動をさらに広く伝えて、その活動を支援し波及させます

第9回「わが村」運動 コンクール

活動団体

→ 応募(全道から61団体)

(1年目) 現地調査、優秀賞・奨励賞の選考

→ ブロック毎に応募団体の現地調査、及び審査を実施し表彰団体を選考
→ 優秀賞団体、奨励賞団体を決定

表彰式

H30年度

(2年目) 大賞の選考

→ 各ブロックの優秀賞受賞団体の中から大賞団体を決定

大賞表彰式

多くの人に伝えるための取組

● HPへ掲載 http://www.hkcd.mlit.go.jp/ky/me/nou_sln/us49g7000000mhcn.html

→ 活動団体の最新情報を広く発信



● メールマガジンの配信

→ 活動団体への情報提供

→ 活動団体の最新情報を発信



● JR北海道の車内誌

→ 「THE JR Hokkaido」への掲載
(JR北海道の協力)



● 地域イベントで活動PR

→ 地域イベントに参加し
団体活動を紹介



● 札幌「チカラ」でPR

→ テレビ「タカラズ」で放映

(札幌市の協力)

● facebook(フェイスブック)の取組 <https://www.facebook.com/wagamura>

→ 活動団体の最新情報を広く発信

(NPO わが村は美しくー北海道ネットワークとの共同運営)

第9回コンクールについて



第9回コンクールポスター



応募要項

- 当コンクールは、自然的・社会的・歴史的に特徴のある景観を形成してきた北海道の農山漁村がより「美しい」あるため、地域の魅力と活力を高めようとする住民主体の活動を見出し、これを広く発信し、波及させていくことによって、農山漁村の振興に寄与することを目指しています。
- コンクールは、2カ年にわたって審査を行い、大賞受賞団体を選考し、表彰します。
- 1年目は、各開発建設部ごと(ブロックごと)に優秀賞、奨励賞団体を選考し、2年目は、全道の優秀賞受賞団体から、大賞を選考し、表彰します。

- 優秀賞 優秀な活動と認められる団体
- 奨励賞 将来性や継続性から奨励する活動と認められる団体
- 大賞 全道の優秀賞の中から先導性、モデル性の高い活動と認められる団体

第9回コンクールスケジュール

1年目

・応募団体募集	平成30年3月5日～平成30年6月29日
・ブロック別優秀賞、奨励賞の選考	平成30年7月～平成30年12月
・ブロック別優秀賞、奨励賞の発表、表彰	平成31年1月

2年目

・全道13の優秀賞の中から大賞を選考	平成31年6月～9月
・大賞受賞団体発表・表彰	平成31年10月頃

第9回コンクール応募団体 【江別市】



江別市「まち」と「むら」の交流推進協議会加工部会

農家のかあさんが始めた加工品の製造販売で、農村地域を活性化！

はじまりは？

江別市内では今から30年前から、自家生産の余剰野菜を利用した加工品作りの取組が始まり、市内には次々と加工施設が開設されました。農業者は「自分のものは美味しい」と自信を持って加工品を製造しますが、いざ販売しようとしても、製品ロット数が少ないことから、販売出来る場所も非常に限られました。

そのような中で、小さな農産加工グループが集まり、江別産農産物や加工品のPR、販路拡大、加工技術の向上、都市と農村との交流などを目的に、平成17年12月に『江別市「まち」と「むら」の交流推進協議会加工部会』が発足しました。

おもな活動

「農家のかあさん土曜市」などイベントでの対面販売を通して、消費者と生産者の顔の見える関係を築いています。自分たちは「生産者であり、技術者であり、販売者であり、経営者であること」を意識した活動をしています。

毎年11月～3月までの期間に6回ほど「農家のかあさん土曜市」を開催し、毎回500人以上の買い物客が訪れます。

土曜市には、他市町村の6次産業化を進めている人々を毎回ゲストとして招き、共に販売活動を行う事で、PRのチャンスを共有しています！

ここが自慢

【えべつかあさんブランド】



平成26年度から、加工品の需要拡大とブランド力向上のため「えべつかあさんブランド」を創設し、江別市の農産物加工品を認証する制度を始めました。

オリジナルの認証シールを作成するなど、認知度向上にも力を入れて取り組んでいます。

平成30年には11商品が認証されています。



毎年大盛況の「農家のかあさん土曜市」



土曜市に並ぶ自慢の加工品や越冬野菜



余剰野菜のジャム作り講習会でスキルアップ



AKK研修会で勉強会

連絡先

代表者名：加工部会長 岡村恵子(おかむら けいこ)さん
設立：2005年12月
会員：14団体
連絡先：江別市役所 経済部農業振興課
農畜産係
住所：江別市高砂町6番地
電話番号：011-381-1025
FAX：011-381-1072
E-mail：nogyo@city.ebetsu.lg.jp

第9回コンクール応募団体 【月形町】

優秀賞

特定非営利活動法人 サトニクラス

農業と福祉のまちで「里に暮らす」農福連携に取り組んでいます！

はじまりは？

月形町は農業と福祉のまちと言われています。町内には3つの高齢者施設と2つの知的障がい者施設がありますが、その1つ「雪の聖母園」を新築する際に、取り壊す予定だった旧寮舎を、漬物加工場「サトニクラス酵房」として再活用し、地元野菜を使った昔ながらの漬物作りを行い、障がい者やニートの若者の就労の場として活動が始まりました。

ハンディキャップを抱えながら社会参加を目指す人々と、農業を生業としながら里に住む人々が、支え合いの「和=輪」をつくり、広げていく活動に取り組んでいます。

おもな活動

地域農業の6次産業化と農福連携に取り組んでいます。

障がい者の特性を生かし、個性に合った働き方が出来るよう地域が一体となり工夫しています。月形町の名産ミニトマトの出荷用段ボール箱の組立作業を請け負うことで、農家の作業負担が軽減されます。農作業のやり方を少しき工夫をすることで、障がい者にも雇用の場が生まれ人手不足の地域農家の労働力確保にも繋がっています。また、農村地域に伝わる昔ながらの製法で、地域の農作物を使用した漬物や味噌、麹などの発酵食品や、規格外の野菜を利用した乾燥野菜作りをして販売しています。

ここが自慢

【里に暮らす農福連携で地域活性化】

高齢者の知恵を生かした昔ながらの伝統食である漬物や味噌などの発酵食品の製造にも、障がい者の特性が生かされ、毎月約1,500パックを月形町内外のスーパーなどに出荷しています。

冬季間は漬物を樽で販売して、地域の発酵食・保存食文化を継承し、夏季には農家と連携して町内に直売所を開設したり、札幌市内で出張販売を行うなど都市と農村の交流に繋がる活動を行っています。



漬物等の製品

直売所の様子



連絡先

代表者名：代表理事 楠 順一(くすのき じゅんいち)さん
設立：2012年5月
員員：115名
連絡先：特定非営利活動法人 サトニクラス
事務局 佐々木 英嘉(ささき ひでよし)さん
住所：樺戸郡月形町知来乙595
電話番号：0126-35-1235
FAX：0126-35-1235
E-mail：npo@satoniclass.com
URL：http://satoniclass.com/

第9回コンクール応募団体 【札幌市】



株式会社 ふるさとファーム

「野菜のなる公園」で子ども達に農業の魅力を伝えたい！

はじまりは？

札幌市南区石山六区地区に平成23年新規就農し、耕作放棄地を整備し、ビニールハウスを建てるところから始めました。

主に夏場はミニトマト、冬場は寒締めほうれん草など「札幌産」の野菜を栽培し、主に生協の「ご近所やさい」として販売、高品質なミニトマトは「札幌蕃茄(ばんか)」ブランドで、ネット通販により全国販売しています。

農場の一部を「野菜のなる公園」と名付け、児童養護施設などの小学生を対象にしたグループに、通年で様々な農業体験や実践型の食育プログラムを行っています。地域の高齢者たちも、「里山」が甦ったようだと子ども達の声に喜び、ボランティアスタッフとして準備や活動の手助けをしてくれます。

おもな活動

農業経営としてのハウスや露地での野菜栽培の傍ら、小学生を対象とした農業体験プログラム「ぱるきっず」を毎月1回のペースで行っています。

農業の魅力を伝えるのも農業者の役割という考え方で、都会の子ども達に楽しい野菜作りの場を提供しています。

「カレーライス畑」では、子ども達が植えて育てた野菜と田んぼのお米で、秋にカレーライスを作ります。作ってから食べるまで、春から秋までの農作業体験を一通り行います。

毎年人気で、募集するとすぐに定員になってしまいます。

ここが自慢

【野菜のなる公園】

「野菜のなる公園」は、公園にブランコがあるように、ブランコ代わりに野菜が植えてあり、いつでも野菜や自然に触れ合い成長や変化を感じることができる場所であり、気軽に立ち寄って遊べる畑です。

近くには、ホタルが飛び交う小川や、栗拾いができる栗の山もあり、札幌とは思えない里山風景がここにはあります。



「野菜のなる公園」で子ども達に食育活動



農業体験プログラム

寒締めほうれん草

滋味なミニトマト「札幌蕃茄」

連絡先

代表者名：代表取締役 東海林 幸恵(とうかいりん さちえ)さん
設立：2011年4月
員員：83名
連絡先：株式会社 ふるさとファーム
住所：札幌市南区石山637-67
電話番号：011-215-1985
FAX：011-215-1986
E-mail：info@furusato-farm.jp
URL：http://www.furusato-farm.jp/

江別酒米栽培グループ「すいせい」

奨励賞

自分たちが作ったお米が美味しい地酒になりました！

はじめは？

平成18年、酒造好適米「彗星」を原料にした江別の美味しい地酒を作るために、4戸の農家が設立したグループです。お米では、江別市で初のエコファーマー認定を受けるなど、環境保全を意識した取組を行っています。酒造好適米「彗星」を使用した江別の地酒「瑞穂のしづく」をより一層、市民や消費者の方々に知つてもらうため、毎年、新酒発表会への参加や、農業体験、関係機関への新酒PRなどの活動を行っています。

自分たちが丹精込めて栽培した安心安全なお米が原料となり、江別の美味しい地酒となることは、メンバー一同の喜びであり誇りです。

おもな活動

市内の子ども向けの活動として、田植や稻刈り体験、酒米を使用したどん菓子の実演などで「彗星」のPRを行うと共に、食育活動を行っています。

また、市民の地酒への愛着を深めてもらうため、彗星稻刈り体験＆酒蔵見学を行っています。毎年恒例の新酒発表会では、「瑞穂のしづく」だけでなく、江別産農産物で作られた様々な料理の提供が行われ、酒造好適米「彗星」と江別の農業をPRしています。

ここが自慢

【「瑞穂のしづく」の原料を作っています】

当初100俵の出荷だった「彗星」は、現在では4倍の400俵にまで生産が伸び、特等品位の酒米「彗星」を出荷しています。「瑞穂のしづく」の販売先も江別市内をはじめ、札幌市内の「どさんこプラザ」などでも特別純米酒や生原酒が販売されるようになるなど、消費量も順調に伸びています。



連絡先

代表者名：代表 山本 宏(やまもと ひろし)さん
設立：2006年4月
員：5名
連絡先：やまもと農園
山本 宏(やまもと ひろし)さん
住所：江別市豊幌34番地3
電話番号：011-383-4308
FAX：011-383-4308



千歳市グリーン・ツーリズム連絡協議会

『千産千消』で地域に密着した取組を続けています！

はじまりは？

消費者に安心安全な農作物を提供するため、個々の農家や地域のグループで有機栽培や減農薬などの取組を行うとともに、敷地内に直売所を設けたり、収穫体験を行う農家が増えてきました。これらニーズの高まりと、「千歳市グリーン・ツーリズム市町村計画」が策定されたことを受け、平成17年に「千歳市グリーン・ツーリズム連絡協議会」が結成されました。

それから10年以上、地域資源の特性と美しい農村環境を生かし、体験型観光や食育教育など地域に密着した取組を続けています。

おもな活動

結成以来、千歳市内で生産された農産物を千歳市内で消費し、グリーン・ツーリズム活動を広く周知させるため、農村地域と市街地住民の交流に繋がる活動を行っています。

食育(食農)講座や千産千消料理講習会、千産千消マップツアー、市内イベントでの野菜の直売などのほか、日帰りでの農産物収穫体験の受け入れ、修学旅行農業体験の受け入れなども行っています。

また、英語表記や多言語表記への取組を始めるなど、インバウンドを積極的に受け入れていくための準備も始めています。

ここが自慢

【「千産千消」（地産地消）】

新千歳空港から車で約15分、支笏湖を囲む山々を背景に水稻、畑作、酪農と北海道を凝縮したような美しい農村風景が広がります。

「千産千消」（地産地消）をコンセプトに千歳の農村地域と農畜産物について、市街地住民に正しい知識と関心を持ってもらうため、「千産千消マップ」を作成し、様々な施設やメニューを紹介しています。



空港から車で15分、美しい田園風景が広がります



様々な体験メニュー



連絡先

代表者名：会長 秋元 正彦(あきもと まさひこ)さん

設立：2005年12月

会員：41名

連絡先：千歳市役所 観光スポーツ部交流推進課

交流推進係

住所：千歳市東雲町2丁目34-2

電話番号：0123-24-0482

FAX：0123-22-8853

E-mail：koryusuishin@city.chitose.lg.jp

URL：http://chitose-greentourism.com/

第9回コンクール応募団体

【石狩市】

JAIいしかり直売所出荷者協議会

消費者の声を聞いた品揃えと品質管理で生産者の顔が見える直売所！

はじまりは？

今から30年以上前、丹精込めて作った野菜が、大きさや形の見た目だけで規格外となり廃棄される事を何とか出来ないものかと、5名の農家が「庭先販売」を始めたことがきっかけです。

この「庭先販売」が評判となり、JA選果場の一角へと移り、仮設テントを張った「農産物直売所」へと成長しました。その直売所がますます評判を呼び、平成23年、現在の「JAIいしかり地物市場とれのさと」として選果場を改装し、JA直営店舗としてオープンしました。平成28年度から冬期間の営業も開始し、現在では年間延べ35万人が来場するまでになっています。

おもな活動

石狩産農産物の素晴らしさ、美味しさを伝えるため、直売所の出荷ルールは、生産履歴はもちろん、出荷基準や売場での陳列期間など細かなことまで全て、農業者である協議会メンバーで取り決めを行っています。

このため「品質管理委員会」を設け、品質のバラつきや不具合の見落としを防ぐため、商品を点検するなど出荷ルールの徹底を図っています。

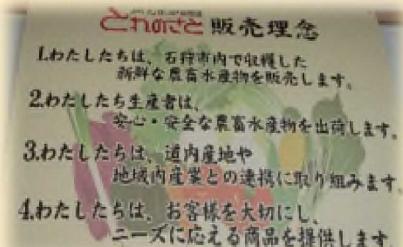
毎年恒例の対面販売は「生産者の顔が見える直売所」として好評です。生産者にとっても、消費者の感想や要望などを聞くことができる良い機会となっています。

ここが自慢

【生きがいに繋がっています】

少量の農産物でも出荷出来るため、高齢農業者の離農の歯止めになっています。

また、出荷する野菜の包装や容量などは、出荷者自身で決めるため、各自で工夫を凝らしたり、消費者の要望を聞いて新たな品種の栽培を試みるなど、高齢者の生きがいにも繋がっています。



連絡先

代表者名：会長 前田 まさ子(まえだ まさこ)さん

設立：2003年

員：97名

連絡先：石狩市農業協同組合

　　営農部農産振興課農産振興係

住所：石狩市樽川120番地3(地物市場とれのさと)

電話番号：0133-73-4500

FAX：0133-73-4502

E-mail：nousansinkouka@ja-ishikari.or.jp

URL：http://www.torenosato.com/

第9回コンクール応募団体 【新篠津村】

グリーンツーリズムしんしのつ

農家体験を通じ、都会では味わえない感動を提供します！

はじまりは？

平成23年1月、農業体験の受入に関心を持っていた米林会長のもとで、隣町を通して修学旅行生の受け入れの呼びかけがありました。早速、「地域活性化のためにやってみよう」と、農業者、JA、新篠津村が三者一体となり4月には異例の早さで「グリーンツーリズムしんしのつ」が発足しました。

修学旅行生や農業体験を受け入れることで、地域が元気になり、都市と農業との交流により、北海道でも有数の穀倉地帯である新篠津村の生産現場をPR出来るのではとの期待で活動が始まりました。

おもな活動

関西方面の学校を中心に、年間10校程度、延べ200人の修学旅行生を毎年受け入れています。年間を通して季節に応じた体験メニュー(野菜の定植、除草、収穫、そば打ち、麦わら細工、除雪など)を提供しています。

また、日帰り農業体験の受け入れやインバウンドの受け入れも行っています。

感動と感謝

ここが自慢



【広大な田園風景の中で何もない贅沢】

都市部から来た子ども達がまず初めに感動するのが、広大に広がる田園風景です。新篠津村は何もない所と思われがちですが、これが立派な観光資源になります。それに気付かてくれたのは、子ども達であり、このグリーンツーリズムです。

体験に来た子ども達は、みんな揃って「お米や野菜が美味しい」と言ってくれます。このことは、受入農家としては、農業に対するモチベーションが上がり、道外での新篠津村のPRへと繋がっています。



連絡先

代表者名：会長 米林 正志(よねばやし まさし)さん
設立：2011年4月
会員数：26名
連絡先：JA新篠津村 新篠津村農業振興センター
住所：石狩郡新篠津村第47線北12番地
電話番号：0126-58-3611
FAX：0126-58-3574

三笠地域における「農」と「食」の連携推進協議会

地域資源を活かした農泊を拠点に地域活性化！

はじまりは？

代表の鈴木氏は、三笠市萱野で農業をしながら、札幌市内で有機野菜の八百屋を経営しています。三笠地域以外の人々との交流を通して、外からの視点で地域を見ると、これまでと違った魅力があることに気付きました。「農」と「食」の視点から、三笠地域には面白い地域資源が多いことに着目し、仲間たちと地域活性化の構想を練ってきました。

平成29年1月に協議会を設立し、活動の拠点となる農泊施設を整備し、農業体験やエコツアーやグランピングなど多様な地域資源と連携することで、地域に人を呼び込み、滞在・時間消費してもらうことを目指します。

おもな活動

これまでの2年間は、「農」と「食」をテーマに水田やりんご畑での農作業体験を組み合わせた畑のレストラン「オーチャード・テーブル」やグランピング「一夜限りのオーベルジュ萱野駅」などのイベントを開催しました。札幌では、三笠産の野菜や果物を使用した「料理教室」や「お菓子教室」、「みそ作り」などを開催し、活動拠点の「すずき農園」では、プロジェクトのシンボルにりんごの栽培を始めました。ゆくゆくはシードル製造を目指しています。

また、都市と農村を結ぶ拠点として、2019年レストラン＆宿泊施設EKARA（エカラ）がオープンします！

ここが自慢



★【三笠地域には面白い地域資源が盛り沢山】

人口や産業の盛衰を経た三笠地域には、炭鉱遺跡や北海道最古の鉄道である幌内線跡、アンモナイトなど太古の地層や化石が見られるジオパーク、桂沢湖などの自然資源、野菜・果実などの農産物や近年注目されているワイナリーやヴィンヤードなど食材の資源も豊富です。また、「高校生レストラン」で有名な北海道三笠高等学校があり、地域の食産業への人材供給を可能とする環境もあることから、これらの地域資源と連携することで、限りない可能性が広がります。



連絡先

代表者名：会長 鈴木 秀利(すずき ひでとし)さん
設立：2017年1月
員：12名
連絡先：三笠すずき農園
住所：三笠市萱野26番地
電話番号：011-863-9373(有機やさいアンの店)
FAX：011-863-9785
E-mail：anne-suzuki@pop06.odn.ne.jp
URL：<http://mikasa-kayano.com/>

第9回コンクール応募団体 【長沼町】

河川愛護団体 リバーネット21ながぬま

長沼町から水害を無くし、住民の生命・財産・農地を守りたい！

はじまりは？

長沼町は、その開拓の歴史が水害との闘いであると言っても過言ではないほど水害の多い町です。春には雪融け水で、秋には台風による大雨で水害に見舞われ、丹精込めて作った農作物が収穫出来ないことも度々ありました。今、この長沼町の100余年にわたる水害の歴史が町民の記憶から薄れつつあるなか、この悲惨な記憶を子ども達に伝えたい、水防に対する町民意識を高めたい、町から水害を無くしたい、との強い思いから、住民の生命・財産・農地を守るために長沼町の町民を中心となり、平成14年から河川愛護団体として活動を始めました。

毎年雪融けが始まる3月から雪が積もる12月はじめまで、16年間変わらず運河の清掃や町内での植樹会など、地道な活動を続けています。

おもな活動



設立当初から続けている清掃活動「馬追運河のゴミ拾い」や、「小鳥のさえずりが聞こえる河畔林植樹会」などの活動は、長沼町の美しい景観を守ることに繋がっています。

また、子ども水防団の勉強会、水中歩行訓練なども継続して行っています。

ここが自慢



【生態学混播・混植法で緑のダム作り】

植樹会で植える苗木は、会員自ら長沼町内の馬追山で樹木の種子を探り、長沼町の土で発芽させ育てたものを使用しています。植樹方法は、1つのサークルの中に10種類の苗を植えていくもので、土地の風土に合った樹木が自然淘汰されて生育していきます。

また、これまで植樹した樹木の成長記録を毎年取り検証し続けています。



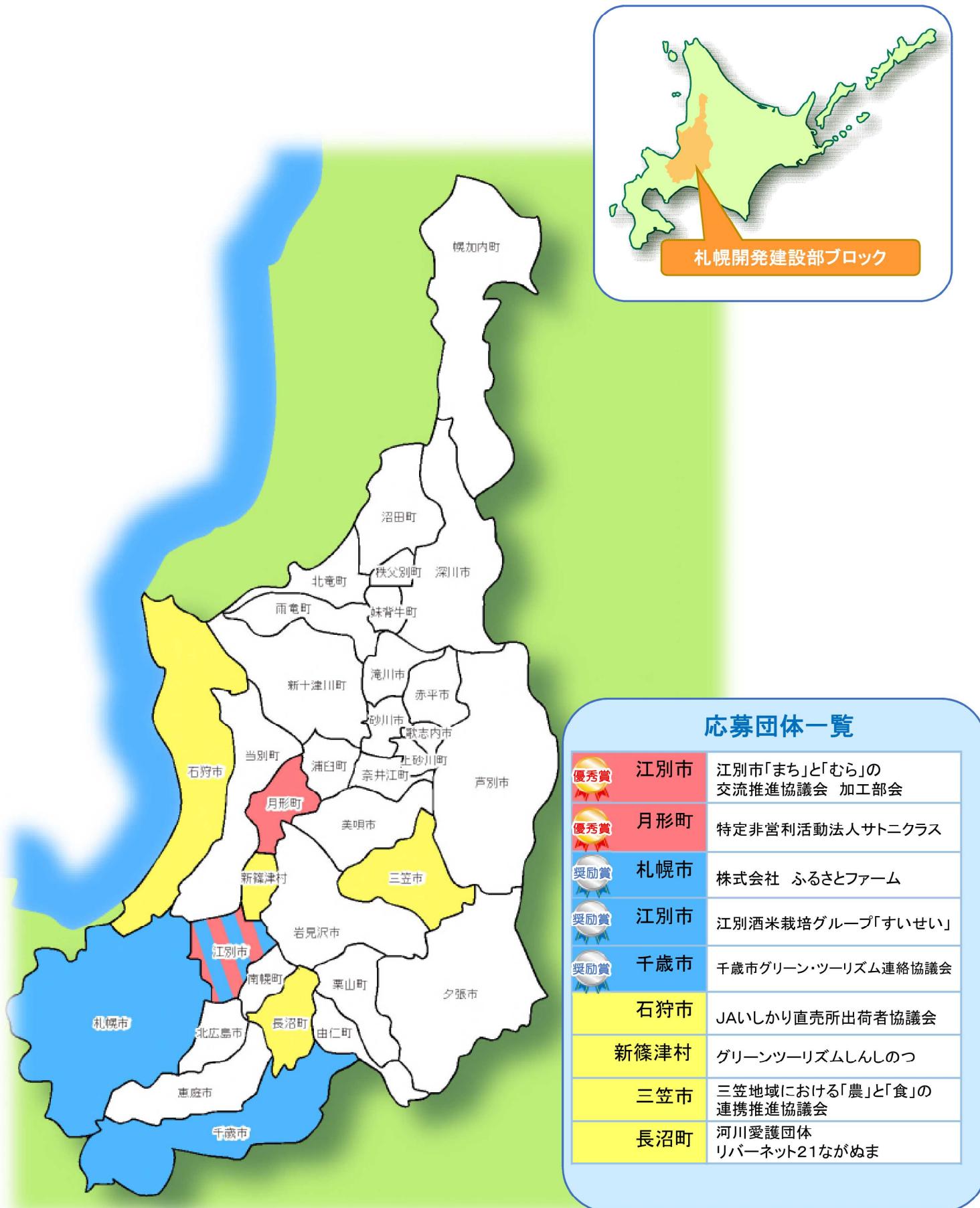
長沼町内の樹木の種子を探っている様子



連絡先

代表者名：会長 山本 隆幸(やまもと たかゆき)さん
設立：2002年7月
員：85名
連絡先：山本 隆幸(やまもと たかゆき)さん
住所：長沼町錦町南1丁目1-17((有)山本内)
電話番号：090-8634-4134
FAX：0123-88-0320
E-mail：yamamoto.takayuki@lemon.plala.or.jp
URL：<https://rivernet-21-naganuma.jimdo.com/>

第9回コンクール応募団体位置図(札幌開発建設部管内)



「わが村は美しくー北海道」運動のコンクール応募状況

- 第1回～第5回コンクールは、「景観」「地域特産物」「人の交流」の3つの部門に団体を募集。
- 第6回コンクールからは、部門を問わず農林水産業に係わる活動を行っている団体を募集。

第1回～第9回コンクール応募状況（管内）

市町村	参加団体数	第1～5回	大賞	第6回	第7回	第8回	第9回
		部門別					
札幌市	6	銅賞					奨励賞
江別市	11	金賞					優秀賞 奨励賞
千歳市	2					奨励賞	奨励賞
恵庭市	5	銅賞	大賞	優秀賞		奨励賞	
北広島市	3					奨励賞	
石狩市	5				奨励賞		
当別町	3	銅賞		奨励賞			
新篠津村	3		大賞		優秀賞		
夕張市	1	金賞					
岩見沢市	12			奨励賞	優秀賞 奨励賞	奨励賞	
美唄市	14	銀賞2回		奨励賞		奨励賞	
芦別市	2						
赤平市	4			奨励賞			
三笠市	1						
滝川市	5	銅賞・特別賞		奨励賞			
砂川市	1						
歌志内市	一						
深川市	6	銀賞			奨励賞2団体		
南幌町	2						
奈井江町	1						
上砂川町	1						
由仁町	3		特別賞			優秀賞	
長沼町	7	金賞・特別賞		奨励賞		奨励賞	
栗山町	2	銀賞・特別賞					
月形町	3						優秀賞
浦臼町	4						
新十津川町	3						
妹背牛町	5				奨励賞		
秩父別町	4						
雨竜町	2	銅賞					
北竜町	8	銀賞・銅賞		奨励賞			
沼田町	5	銀賞・特別賞					
幌加内町	8	※ 金賞2回 銅賞・特別賞	大賞		奨励賞	優秀賞	
計	142						

※幌加内町は第1回～第5回において、3部門全てで金・銀・銅賞のいずれかを受賞したことから「わが村は美しく賞」として表彰。

第1回～第9回コンクール応募状況（全道）

	景観	地域特産物	人の交流	合計	応募団体数	応募市町村数
第1回	38	39	49	126	114	70
第2回	51	57	89	197	160	103
第3回	43	76	98	217	170	103
第4回	41	83	105	229	169	100
第5回	52	81	138	271	200	104
第6回	-	-	-	-	113	84
第7回	-	-	-	-	99	80
第8回	-	-	-	-	86	70
第9回	-	-	-	-	61	59

「わが村は美しくー北海道」運動第8回コンクールの応募状況

	参加団体数	大賞	優秀賞	奨励賞
全道	86	2	14	26
札幌開発建設部	10	1	2	3

※大賞受賞団体は「北海道幌加内高等学校」(幌加内町)と「十勝パンを創る会」(帯広市)でした。

「わが村は美しくー北海道」運動第9回コンクールの応募状況

	参加団体数	大賞	優秀賞	奨励賞
全道	61	※	13	21
札幌開発建設部	9	※	2	3

※第9回コンクールの大賞は全道優秀賞13団体の中から平成31年度に決定します。

「わが村は美しくー北海道」運動ロゴマーク

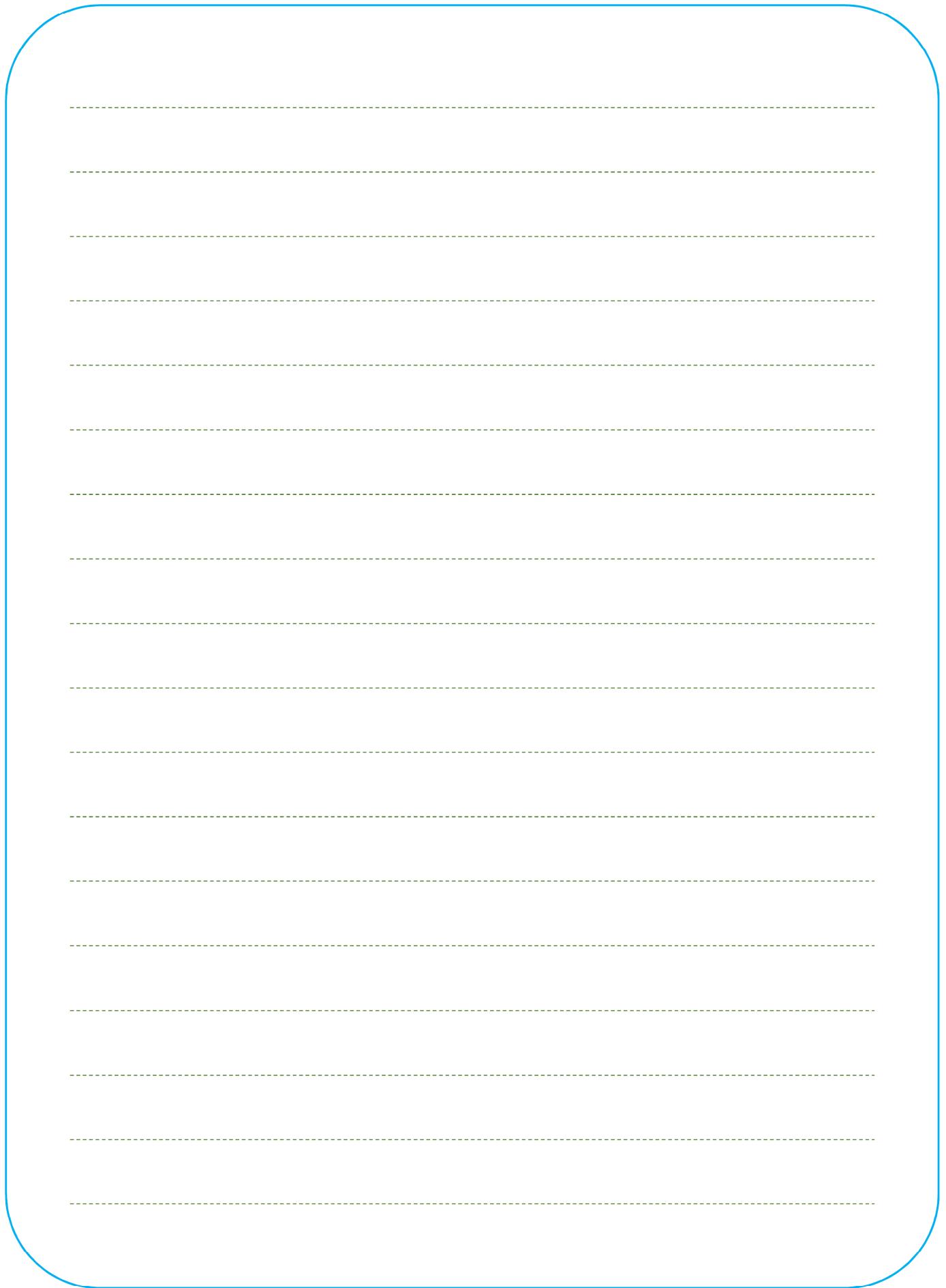


“わが村は美しくー北海道”

「大」は北海道の広大な大地、「人、人、人」はみんなで参加し、運動の考え方を共有しよう、みんなに伝えよう、「＼ /」は広げよう、発展させよう、という意味をイメージしています。

赤は「北海道の人たちの地域づくりのモチベーション、熱い思い」を、緑は「北海道の有する豊かな自然、森や木(山林)、農地の緑(農村)」を、青は「北海道の水の清さと綺麗な空気、豊かな海(漁村)」をイメージしています。

ロゴマークは、「わが村は美しくー北海道」運動の趣旨に賛同し、運動を応援していただけの方々に広く使用していただくものです。



The page features a large, light blue rounded rectangular border that encloses ten sets of horizontal dashed lines. These lines are used for practicing letter formation and alignment. The sets are evenly spaced vertically across the page.



国土交通省 北海道開発局
札幌開発建設部 土地改良情報対策官

住 所：札幌市中央区北2条西19丁目
T E L：011-611-0274 (ダイヤルイン)
F A X：011-611-4232

2019.03作成